



みんなの宝物

エプロン通信員 神賀 郷子

ひと月ほど前から宜野湾市立市民図書館で破損図書が展示されているのをご存知でしょうか？現在この展示を通して延滞図書の返却と、愛情を込めた活用を呼びかけています。

市民図書館はその設備、内容ともに近隣の市町村と比べても二級の施設です。話題の新作はもとより人気の各種雑誌も取り揃え、昨年度の貸し出し点数は四十七万点を数えました。一方で毎年平均二千冊の本が貸し出し事実のないまま行方不明となり、また汚れ、切り抜き、破れなどで除籍された本も昨年だけで三百冊近くになります。呼びかけに応じて返却される本がある一方で書店や自治会公民館のゴミ箱から大量の蔵書が発見されたこともありました。延滞図書をカウンターで返しづらいつい時にはぜひ入口脇の返却ポストを利用しましょう。万が一破損してしまった場合も手をつけずそのまま返却を。館員は修理のプロです。

図書館では返却された本二冊を確認し、修理したり汚れを落としてまた閲覧棚に戻しています。こうした作業は一人で

も多くの人に本を活用して欲しいという願いが込められています。あなたが感動した本、助けられた本が他の人の心の琴線に触れ、抱えている問題を乗り越える一助になることがあるのです。多くの人が同じ一冊の本から生活をともに豊かにできる、それが図書館のもっている大きな力ではないでしょうか。ぜひ私たちのものである一冊の本を大切にしていきたいものです。

また図書館二階には学習室のほか展示室、研修室、カルチャーホールがあり、図書館の趣旨に沿った活動であれば無料で利用できます。これから定年退職を迎える方や読み聞かせをしたいお母さんなど仲間と一緒にぜひ活用していきましょう。

市税で百パーセント運営されるわたしたちの市民図書館です。現状のままでは今のような自由な閲覧も難しくなるでしょう。外国では監視カメラが常時見張っていたり、また強力な磁気チップを検討しているところもあります。共有財産のありかたについて改めて考えるいい機会かもしれません。



茶ぐわーゆんたく 37

三十五年目の日本円

今から三十五年前となる一九七二(昭和四十七)年五月十五日、沖縄は九四五(昭和二十)年の沖縄戦を起点に、二十七年間に及んだ米軍支配から解放され、日本復帰を果たしました。

復帰と同時に、一九五八(昭和三十三年)から導入されたドル通貨も見直され、慣れ親しんできたドル通貨から日本円に切り替えられました。切り替えは、各地の金融機関や市役所内の通貨交換所で、復帰した日の五月十五日から二十日の六日間にかけて、全県的に行われました。

宜野湾でも、普天間・大謝



普天間郵便局での通貨交換の様子。使い慣れたドルから日本円への交換に、お年寄りの方々も混乱したようです。1972(昭和47)年

名大山・真栄原の計七か所の金融機関と普天間の郵便局で通貨切り替えが実施されました。初めて手にした日本円は、お金としての値打ちが分からず、ドルの方がよかつたと語る方もいました。ドルを三〇五円のレートで交換され、店頭では切り替えに便乗して、ドルを三〇五円以上に値上げして商品を販売し、物価も上昇しました。「円は「やく病神」を持ってきた」と嘆く主婦の声も新聞で報道されたように、県民の生活は脅かされ、日本円の導入は混乱をきたしました。

そのような状況下、日本政府は、復帰後から本土との格差是正のため、様々な制度を定め、沖縄の社会整備を進めていきました。

宜野湾市史への問い合わせ
教育委員会文化課
☎ 八九三ー四四三ー